〈本郷キャンパス〉
学校法人文京学園
文京学院大学経営学部・外国語学部・保健医療技術学部／大学院／文京学院大学生涯学習センター
〒113-8668 東京都文京区向丘1-19-1
☎大 03-3814-1661 生涯 03-5684-4816
文京学院大学文京幼稚園
〒113-0023東京都文京区向丘 2-4-1
☎幼 03-3813-3771

〈ふじみ野キャンパス〉
文京学院大学人間学部・保健医療技術学部／大学院／文京学院大学ふじみ野幼稚園
〒356-8533 埼玉県ふじみ野市亀久保1196
☎大 049-261-6488 幼 049-262-3806

〈駒込キャンパス〉
文京学院大学女子高等学校／文京学院大学女子中学校
〒113-8667 東京都文京区本駒込 6-18-3
☎03-3946-5301

文京学院

平成 29 年（2017 年）
3 月 31日
第 728 号
発行
学校法人文京学園
http://bgu.ac.jp

大学 中京学院大学と相互交流協定を締結

本学の伝統行事「五街道ウォーク２０１４・２０１６」で中山道を踏破するにあたり、本学は中京学院大学（岐阜県瑞浪市・中津川市）より厚いご支援とご協力をいただきました。両大学の学生が共に中山道を歩いたことで、大学間の交流が深まり、それをさらに発展・継続させるため、３月２日、本郷キャンパスにおいて「相互交流に関する協定書」の調印式を行いました。

左から安達副理事長・事務局長、長野理事長・学長、工藤学長・教授、島田理事長・教授

調印式には、中京学院大学から長野正理事長・学長、安達幸成副理事長・事務局長、簗瀬洋一郎経営学部教授・学生支援部長、本学から島田昌和理事長・経営学部教授、工藤秀機学長・保健医療技術学部教授、柿崎藤泰保健医療技術学部教授・学生部長、竹内秀和事務局長・統括ディレクター、森岡俊也本郷キャンパスディレクターらが出席。

まず、柿崎学生部長、簗瀬学生支援部長から相互交流協定締結について経緯説明がありました。

続いて、島田理事長はじめ関係者一同が見守る中、両学長による協定書調印が行われ、会場のサロン・ド・ブンキョウには大きな拍手が起こりました。

記念撮影後に両学長があいさつ。長野学長は「初の大学間協定により、学生の視野がさらに広まること」に期待を寄せました。工藤学長は「今後、両大学の学生・学術交流により得たものを社会に還元したい」と抱負を述べました。青山節児中津川市長からも「両大学に中津川市を人材育成の場として活用していただき、大学と地域の発展に繋げたい」と期待するメッセージが届きました。

今後は、本学の「30㎞ウォーキング」や、先方の「中津川リレーマラソン」など相互の行事にも参加することを含め、さらに交流を深めていくことになります。

高校 武蔵野大学「数理工学コンテスト」本校が「奨励賞」受賞

薩摩学科長から祝福される神田さん（右）

「第３回数理工学コンテスト授賞式」が３月25日、武蔵野大学有明キャンパスで開催され、本校の神田華さん（２梅）が「奨励賞」を受賞しました。

このコンテストは、同大学工学部数理工学科が主催。数理工学の専門能力を身に付け、自然現象や社会現象をモデル化して理解し、システム設計に応用できる人材や、ビッグデータから問題の本質を見抜くデータサイエンティストの育成の一環として行われています。

今回は、全国から101件の応募があり、神田さんは「シャボン玉の割れる時間～シャボン玉液の濃度による割れる時間の変化～」をテーマとした研究作品でチャレンジ。

同研究は「シャボン玉の体積を一定にするために、注射器にシリコンチューブとシャボン玉専用ストローを付けた作成装置」「各濃度200個のシャボン玉の割れる瞬間をハイスピードカメラで測定」などの工夫や努力が高く評価され、今回の受賞に結びつきました。

神田さんは「１年半にわたる研究を、論文という形にまとめるのが難しかった。高校時代にこのような形で深く研究できたことがとてもよかった」と充実感溢れる笑顔を見せました。会場には、神田さんを指導した岩倉寛樹講師と担任の草薙美生教諭も駆けつけ、受賞を祝福しました。

大学 経営学部学生が「現代版・裃雛」をお披露目

本学と岩槻人形協同組合（埼玉県）は、岩槻人形の元祖「裃雛（かみしもびな）」を復活させるプロジェクトを立ち上げ、経営学部の学生と人形職人の方々が共同で新商品を完成させました。昨年のふくろう型眼鏡置きに続き、第二弾の商品開発となります。

この「現代版・裃雛」のお披露目を兼ねて本学は３月６日、さいたま市プラザノースにおいて新商品発表会を行いました。マスコミで満席の会場においてまず、岩槻人形協同組合の新井久夫理事長が「岩槻にとっての裃雛とその復興」について解説。続いて本学の工藤秀機学長・保健医療技術学部教授が「大学が取り組む人形産業再興の意義」について話しました。最後に経営学部２年の細田久美子さんと松原有花さんが、「制作のコンセプト」を軸に開発の苦労やプロセスについて発表しました。

「現代版・裃雛」を披露する細田さん（左）と松原さん

新商品において学生たちは「親から子への願い」をコンセプトに、子どもが健やかに育つための「眠り」に着眼し、「居眠り姿の愛らしい人形」を考案。

その姿に合う衣装も模索し、生地選びや模様デザインも行いました。

細田さんと松原さんは「学生のイメージを職人の方々に伝えることは大変難しく、イラストや粘土を駆使して協議を重ねました。なかなか思い通りの形にならず、できあがった人形を解体したこともありました。職人さんと共に辛抱強く取り組み、新商品を開発できて何よりもうれしい。皆さんに愛される人形になってほしい」と想いを語りました。

また、「現代版・裃雛」については、ＮＨＫや読売新聞、日本経済新聞、産経新聞等15媒体に掲載されました。さらに、学生は３月24日にテレビ埼玉で放送された「ニュース９３０」に、生出演しました。

大学 本学学生・ゼブラ・ふじみ野市三者で社会貢献

本学では、人間学部の学生たちが中心となり、「寄付金付きボールペン」の企画・販売を行うプロジェクトを実施。３月14日、本郷キャンパスにおいて島田昌和理事長・経営学部教授、木村浩則人間学部長・教授をはじめ関係者が見守る中、寄付金贈呈式を行い、収益の５万２９５３円を、子どもの貧困問題に取り組むＮＰＯ法人キッズドアに寄付しました。

同プロジェクトは「日本における子どもの貧困」の解消に役立ちたいと人間学部コミュニケーション社会学科３年の押木彩華さん、保住友貴さん、前田瞭太さんが、「フィールド・プロジェクト演習」の一環として実施しました（担当教員＝古市太郎助教）。

コーディネーション業務を学生が担当し、文具メーカーのゼブラ株式会社がボールペンを製作、株式会社カントー商事（ふじみ野市）を窓口に、ふじみ野市が昨年11月に同市で行われた「第８回ふじみ野市産業まつり」をはじめ、産業振興課窓口などで、寄付金を含み１本１５０円で販売。ボールペンには、本学併設のふじみ野幼稚園の園児が描いた植物や乗り物、さらに、ふじみ野市ＰＲ大使「ふじみん」や、ＪＡいるま野農産物マスコットキャラクター「とれ蔵」がプリントされています。

寄付金を贈呈した学生と関係者

Green Spirits 中・高卒業生に 贈る言葉

中学3年学年代表 田中寿一

この春、卒業した皆さんに初めて会った時に話したことばです。「ならぬことはならぬ。しなければならないことは嫌でもする。朝は希望と共に起き、昼は努力と共に生き、夜は反省と共に寝るのです。人生80年３万日、自分の夢に誠実であれ。過去は過ぎ去り、未来は来たらず、確かなのは、この現在のみ」。

そして、これから高校生活を送る皆さんへ、贈ることばです。

一、家族を大切にする
一、高い志を持つ
一、自分を厳しく律する
一、努力を継続する
一、共生の心で人に接する
一、全てのものに感謝する
一、凡事徹底をはかる

充実した高校生活、そして人生を送ってください。卒業おめでとうございます。

一貫部高3学年代表 田島雅人

「日日是好日」。掛け軸や色紙に書いてあるのを見かけたことがあるのではないでしょうか。『碧巌録』に収められている禅語ですが、簡単に言えば、「毎日がよい日だ」ということです。人は何ごとに対しても好き嫌いの感情を持ちがちですが、順境も逆境も全て前向きに受け入れてしまいましょう、ということです。

人に対しても同じです。大学や社会に出ると、同じ文京生同士というわけにはいかず、自分と価値観の異なる人とたくさん出会うと思います。文京生宣言の中に「多様性を楽しみ、他者に対して気配り豊かで礼儀正しくあれる生徒」とありますが、卒業後も心に留めておいて欲しいと思います。卒業おめでとうございます。

高等部3年学年代表 恩田好久

時が過ぎるのは早いものですね。この号が出る頃には、新しい生活が始まっていることでしょう。

３年間の高校生活には色々なことがありましたが、特に進学棟で過ごした最後の１年間は、各々の進路実現に向けて懸命に努力した、とてもハードな１年だったと思います。

その努力があるからこそ、今の新しい生活があるのです。高校時代の努力を忘れずに、これからの日々が充実するように更に頑張ってください。

数年後、社会人として活躍するあなた達にお目にかかれることを楽しみにしています。

1750名が新たなステージへ

特集　3キャンパス　それぞれの門出

春は別れと新しい門出の季節。文京学院でも、幼稚園の修了証書授与式、中学・高校の卒業証書・学位記授与式、大学院の修了証書・学位記授与式、生涯カレッジの修了式が順次執り行われました。平成28年度は、1750名が新たなステージへと飛び立ちました。

3月8日「高校」

卒業生315名が吹奏楽部の演奏に合わせて本郷キャンパス・メセナに入場すると、会場から大きな拍手が起きました。式典に先立ち、吹奏楽部から卒業生に『希』の演奏が贈られました。指揮は深町暁コーチ。

高石和人副校長の司会で、清水直樹高等部校長が総代の幡野実彩季さんに卒業証書を授与。さらに全卒業生一人ひとりに卒業証書を手渡しました。

続いて、次の生徒が表彰されました（敬称略）。

★皆勤賞（48名）代表＝眞島杏実★精勤賞（65名）代表＝松本京乃★東京都知事賞＝舶戸佳奈恵★日本私立中学高等学校連合会賞＝與田柚香★東京都私学財団奨励賞＝小林桃子★東京都私立財団文化・スポーツ活動賞＝木村早希子★東京都体育会賞＝浅野早季子★褒賞＝第66期生徒会長・呉莉那

「送る言葉」は在校生代表・宮崎桜子さん、「感謝の言葉」は卒業生代表・呉莉那さん。

卒業生が『3月9日』を合唱した後、全員で送別の歌『蛍の光』を歌い、名残を惜しみました。最後に、島田燁子学園長、島田昌和理事長、佐藤芳孝統括校長、南部和彦中高一貫部校長、清水高等部校長が、保護者に感謝の言葉を贈りました。

卒業生にはなむけの言葉を贈る清水高等部校長（中央）

3月19日「中学校」

3学年担任を先頭に、120名の卒業生が仁愛ホールに入場すると、会場から大きな拍手が起こりました。高石和人副校長の司会により、南部和彦中高一貫部校長が、卒業生総代・粕谷芽花さんに卒業証書を授与。さらに全卒業生二人ひとりに卒業証書を手渡しました。続いて、次の生徒に表彰状が授与されました（敬称略）。

★日本私立中学高等学校連合会賞＝小嶋美結★財団法人東京都体育協会体育優良生徒＝塩野日向★検定三冠王（実用英語検定、漢字能力検定準2級以上、および数学検定3級以上）岩野安杜己、石渡千恵、萩原里奈子★褒賞＝第35期生徒会長・佐藤友里江★皆勤賞（20名）代表＝市川古都里★精勤賞（18名）代表＝松田愛梨奈

「送る言葉」は在校生代表・菅沼美音さん、「感謝の言葉」は卒業生代表・佐藤友里江さん。在校生からは『365日の紙飛行機』の合唱が贈られました。指揮は矢澤彩那さん、ピアノ伴奏は吉川花音さん。卒業生は『さくら』を合唱し、別れを惜しみました。指揮は安田遥那さん、ピアノ伴奏は中川愛菜さん。国歌・校歌の伴奏は、草野那月さんが務めました。

式辞を述べる南部中高一貫部校長（中央）

3月11日「本郷キャンパス」

仁愛ホールにおいて、午前には大学院外国語学研究科、外国語学部、午後には大学院経営学研究科、経営学部の学位記授与式が行われました。

工藤秀機学長・教授より修了証書・学位記、卒業証書・学位記、学長賞、さらに担当教員より各賞が授与されたのは次の皆さんです（敬称略）。

告辞を述べる工藤学長

大学院外国語学研究科

★修了生4名総代・学長賞＝原田美紗希★優秀論文賞＝原田美紗希★仁愛賞＝秋元伸子

外国語学部

★卒業生215名総代・学長賞＝高橋楓★Bunkyo GCI修了生34名総代・学長賞＝吉野綾華★優秀論文・優秀作品賞19名代表＝豊嶋大吾（深澤咲耶、松田京佑、栗原理佐子、阿部雅、山本綾奈、宮下浩平、能島莉央、吉野綾華、若山くるみ、西岡あゆみ、宮崎菜津生、金谷有理、古田優奈、豊嶋大吾、根岸菜緒、大沢洋樹、辰口秋乃、細田夏美、浅井玲花）★仁愛賞＝西岡あゆみ

大学院経営学研究科

★修了生18名総代・学長賞＝平尾貴則★修士論文合格書18名代表＝池内美穂★最優秀論文賞＝内藤香里★優秀論文賞＝出原亮、櫻井佳子★仁愛賞＝石橋大樹

経営学部

★卒業生236名総代・学長賞＝郭怡君★Bunkyo GCI修了生10名代表＝渡邊ありさ★卒業論文・制作合格証書208名代表＝池島恵★優秀論文・優秀制作賞10名＝森永捺木、佐藤千春、宮川拓也、黒須遥香、李佳禎、久保光世、出浦秋歩、濱田圭奈子、小堤千聖、工藤達也★ベストバリュー作品表彰＝佐藤真由美、麻生小百合★仁愛賞＝小沢結衣

3月12日「ふじみ野キャンパス」

アトリウムにおいて、午前には大学院保健医療科学研究科、保健医療技術学部、午後には大学院人間学研究科、人間学部の学位記授与式が行われました。

工藤秀機学長・教授より修了証書・学位記、卒業証書・学位記、学長賞、さらに担当教員より各賞が授与されたのは次の皆さんです（敬称略）。

大学院保健医療科学研究科

★修了生19名総代・学長賞＝鈴木光一★仁愛賞＝小林弘幸

保健医療技術学部

★理学療法学科87名・作業療法学科40名・臨床検査学科75名総代・学長賞＝江口和代★Bunkyo GCI修了生2名代表＝荒井大輝★みよし会賞＝嘉崎珠美（理学療法学科）、水村翔（作業療法学科）、野口圭太（臨床検査学科）

人間学研究科

★修了生11名・研究生1名総代・学長賞＝村山陽★最優秀論文賞＝村山陽

人間学部

★卒業生386名総代・学長賞＝藤井紅羽★Bunkyo GCI修了生9名代表＝加藤沙織★仁愛賞＝中潟亮兵（コミュニケーション社会学科）★全国保育士養成協議会表彰＝上田千紘（児童発達学科）★全埼玉私立幼稚園連合会表彰＝長田美穂（同）★日本会福祉士養成校協会表彰＝山口真由（人間福祉学科）★日本精神保健福祉士養成校協会表彰＝石川千夏（同）★日本介護福祉士養成施設協会表彰＝石橋美帆（同）★小田島雄志賞＝寺崎真初（コミュニケーション社会学科）

式典の様子

3月7日「文京生涯カレッジ」

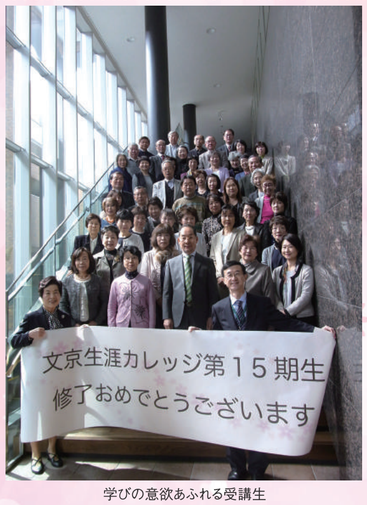
生涯学習センターが開講している「第15期文京生涯カレッジ」では、学びの醍醐味を知る受講生60名が、本郷キャンパスで修了式を迎えました。

会場のコンソナホールで、森岡俊也生涯学習センター所長・本郷キャンパスディレクターが、代表の増田美智さんに修了証書を授与。続いて、皆勤賞10名、精勤賞2名に賞状と記念品を授与しました。10年以上同カレッジで学び続ける受講生13名の氏名も読み上げられ、会場から大きな拍手が起こりました。島田燁子学園長・生涯学習センター名誉所長からは、挨拶と講話があり、受講者一同、熱心に聴き入りました。

最後に、修了生代表として、皆勤賞の堀井宏祐さんと髙倉優美子さんが1年間を振り返り、生涯カレッジの魅力や興味深かった講義などについて語りました。

第15期の受講者もまた、高い出席率を誇り、その誠実・勤勉さは正に本学の精神を体現しています。

修了式の時点で「第16期文京生涯カレッジ」は既に沢山の申込があり、その内容の充実度がうかがえます。



学びの意欲あふれる受講生

3月18日「ふじみ野幼稚園」

104名の修了児が園ホールに入場すると、会場から大きな拍手。一人ひとりが大きな声で自分の名前を言い、ホール中央の台の上へ。小栗俊之園長から「おめでとう」の言葉と共に修了証書が贈られました。授与式の合間には『さようなら』みんなのようちえん」の合唱もありました。

園児が、修了証書を保護者に手渡し、感謝の言葉を人ひとりが大きな声で伝えると、保護者からは「成長したところ」のお返しの言葉がありました。修了証書の隣には、子どもから保護者へ「ありがとうの気持ち」が書かれた手紙が入っていて、保護者はみな大感激！　親子の絆がより深まった瞬間でした。

小栗園長の挨拶に続き、修了児一同、『またあえる日まで』を合唱して元気に退場しました。

保護者の前で元気に歌う修了児（写真提供＝スタジオ・トナミ）

小栗園長（写真提供＝スタジオ・トナミ）

3月18日「文京幼稚園」

修了児60名が園ホールに入場すると、会場から大きな拍手が起こりました。島田燁子学園長のお祝いの言葉に続き、奥村幸子教諭の司会で、園歌『みんなのうた』を合唱。クラス担任から一人ひとりの名前が呼ばれ、「それぞれの良いところ」と「小学校で頑張ったこと」が披露されると、一人ひとり「はい！」と返事をして、益田薫子園長から修了証書を受け取りました。「ありがとうございます！」のお礼も、みんなしっかりできました。

益田園長は「とても立派な態度でした。みんな100点！」と最後に満点を贈りました。年中組からは、お祝いの言葉と力スタネットや鈴の合奏が贈られ、修了児は花のアーチをくぐって元気に退場しました。

お祝いの言葉を述べる益田園長（右）

中高　韓国教職員40名と交流

国際連合大学の国際教育交流事業の一環で行われている「韓国教職員招へいプログラム」が、この1月17日から23日まで、東京都や千葉県で行われました。

第17回となる今回は、韓国から初等中等教育教職員120名が来日。そのうちの40名が1月18日、駒込キャンパスへ来校しました。南部和彦中高一貫部校長から歓迎の挨拶を受けた後、一行を代表してヤン・ソンユン氏と佐藤芳孝統括校長が記念品を交換。水上茂副校長が本校概要の説明をしました。

その後、一行は、7グループに分かれて授業参観。先方の教員による授業も行われ、中2菊組と高2藤組は韓国語、高2桜組は英語を学びました。中には、韓国の民族衣装をまとった教員から、五方色（黒・白・赤・青・黄）にまつわる話や、韓国紙を使用した鏡の作り方を学んだクラスもありました。生徒から『アリラン』の歌を贈られた教員たちは「うれしくて涙が出そうだった」と感激。

昼食時には、生徒と同じメニューの給食を体験しました。まとめとして、本校の教員と共にグループに分かれ、日本と韓国の指導方法について意見交換。どちらも「生徒にとって有益な教育」を巡り、活発な意見が飛び交いました。最後に、清水直樹高等部校長が言葉を送り合い、教育を通じた日韓の交流が盛んになることを祈念しました。

民族衣装で生徒と交流

中学「創作ダンス発表会」パワフルに

第27回「創作ダンス発表会」が3月4日、仁愛ホールで行われました。

中学3年生を対象とした同発表会は、保健体育のダンスの授業で1年間、基礎から創作までを学び、教員の指導を受けながら、すべて生徒が曲や振付を考え、衣装も工夫。クラス内予選を経て、今年は9つのグループが出場しました。

当日の運営も、実行委員会の生徒たちが担当。会場には仲間を応援する声が飛び交い、出場者もパワフルなダンスを披露。1・2年生も、その姿に熱い視線を送りました。

高2檜・楓・杉組の先輩たちや、ダンス部、新体操部も登場出演し、見事なパフォーマンスを披露。高石和人副校長が審査結果を発表すると、会場は大歓声に包まれました。以下、入賞結果です。

★最優秀賞＝「Corrupt town」（栗）

★優秀賞＝「Sky」（松）「TOY STORY」（菊）

★努力賞＝「Summer & Winter」（桃）

入賞グループは、南部和彦中高一貫部校長から賞状を手渡され、弾ける笑顔を見せました。終わりに水上茂副校長から講評と労いのことばを受け、3年生は精いっぱい頑張った最後の行事を終えました。

想いを精いっぱいダンスで表現

大学院「OB・OG就職相談会」後輩の力に

「OB・OG就職相談会」が2月18日、本郷キャンパスB・sダイニングで開催されました。今回は、金融・広告・商社・IT業界など15企業がブースを設け、卒業生が1回30分、5回の相談会を実施しました。

どの顔も、懐かしい顔ぶれ。在学生は、社会人として大きく成長した先輩たちの話にじっくりと耳を傾けました。教職課程を取り英語教員免許を取得して、現在、広告業界で働く森田恵香さん（2012年度、外国語学部卒業）は「地域密着媒体なので個々の商店に出向くことがあり、先方がとても喜んでくださることが多く、とてもやりがいを感じています。後輩には、主体的に動いて、笑顔で楽しみながら就活すると、きっと自分に合った企業が見つかります」とアドバイス。

屋江瑞菜さん（外国語学部3年）は「大きな会場での相談会は相談しにくい雰囲気ですが、この相談会では、歳の近い先輩が親身に受け応えをしてくださるので、色々なことを聞くことができました。具体的にお給料のとり方を聞きました。一般的に年々上がるけれど、業績によって上がり方も変わるという答えをいただき、やる気になりました」と笑顔を見せました。

この他キャリアセンターでは「ジュニカツ・マスター講座」「業界研究セミナー」「ジョブ・フェア」などを開催して就活生を支え、大きな力となっています。

先輩から生きた情報を聴く学生たち

大学「経営学部学生「アンプティサッカー」体験会」を実施

経営学部新田都志子ゼミでマーケティングを学ぶ学生たちが3月4日、大学生を対象とした障がい者スポーツ体験会プログラム「アンプティサッカー体験会 Supported by SOCCER KING」を、キャプテン翼スタジアム東京北（北区王子一丁目）で開催しました。

同イベントは「アンプティサッカー」の体験や、障がい者とのトークセッションを通して、障がい者と共生するための理解を大学生へ促すことを目的とし、学内外から大学生の参加者を広く募って行われました。

「アンプティサッカー」とは、下肢に障がいを持つ選手が、ロフストランドクラッチと呼ぶ杖を使って片足でボールを蹴り、上肢に障がいを持つ選手が片腕でゴールを守る7人制競技。

当日は、アンプティサッカー日本代表を含む8名の選手が参加し、トークセッションや大学生との体験試合を行いました。

新田ゼミでは、2014年度から東京オリンピック・パラリンピックを見据えて、スポーツをテーマに研究。中でも、障がい者スポーツの観戦や体験会に参加した際、集客ができない現状に目を向け、障がい者スポーツの認知度向上・普及をマーケティングで支えるプログラムの開発・実践を進めています。

杖を使って走る体験

大学「もりの教室同窓会」に60名参加

これまで本学環境教育研究センター（センター長：柄田毅人間学部准教授）が実施してきた子ども対象の環境教育「森のムッレ教室」が、今年度から「もりの教室」と名前を変え、「親も子ども共に楽しめる」活動に生まれ変わりました。

全6回のイベントを終えた集大成として3月5日、ふじみ野キャンパスで「もりの教室同窓会」が開かれ、19家族60名の参加者が参集。まずは、落ち葉をラミネートして、昼食に使うランチョンマットを作成。続いて、自然農法に取り組むNORAメンバーと環境教育研究センター所属の学生が育てたお米と、学生が支援を続ける福島県郡山市逢瀬町の米粉を使ったライスピザを作りました。具は「ご飯に合うもの」という条件で、キムチや沢庵、海苔の佃煮などの変わり種も登場！　参加者一同、焼き上がったライスピザを堪能しました。

同イベントをリードした亀田玲菜さん（児童発達学科4年）は「もりの教室」についての卒業論文を完成。保護者の前で一部を披露しました。学生代表の小玉亮太さん（同）は、良き兄貴分として沢山の子どもに囲まれ、遊びをサポートしました。

古場彩さん（コミュニケーション社会学科3年）は、仲間から頼られる存在。卒業する4年生に代わり、同センターを運営する逸材として期待されています。

ライスピザを堪能する参加者

高校　「スポーツ科学コース研究発表会」盛大に

本校独自の「スポーツ科学コース」は、ただ単に技術を学ぶだけではなく、部活動・文化活動と学業を両立させ、探究心を喚起させる指導が行われています。自分が興味をもつテーマを深く研究し、専門知識を得ると共に、ひとつのことを成し遂げる達成感を感じながらキャリアを積んでいきます。その学びの成果を披露するため、高1と高2の生徒たちが3月15日、駒込キャンパスBALスタジオで「研究発表会」を開きました。

当日は、島田燁子学園長、佐藤芳孝統括校長、南部和彦中高一貫部校長、清水直樹高等部校長はじめ関係者出席のもと、まずはクラス予選通過グループによる次のプレゼンテーションが行われました（敬称略）。

★「X・XO・O脚・正常な脚の比較」（X・XO・O脚・正常な脚の違いにより、どのようなトレーニングをすれば怪我予防になるのか）＝（1杉／指導・山田ゆり香教諭）五十嵐仁美、大木果音、下絢乃、西辻菜々葉

★「心拍数と疲労度の関係について」（心拍数の回復にはどのような方法がよいのか）＝（1杉／指導・和智潔教諭）安藤千洸、大輪かれん、高杢真那、本堂環稀

★「ドリンクで疲労は変わるか」（運動に最適な飲み物を作ることができるか、それぞれの運動に最適な飲み物は？）＝（2杉／指導・熊田真紀教諭、天野嘉之教諭）山本美月、吉川美紗

★「スポーツと香り part2」（自分が不快に感じるニオイは？）＝（2杉／指導・小山亜由美教諭、床爪克至教諭）松本みやび、茂手木瑛美

★「人はなぜスポーツで感動するのか」（他人事なのにどうして感動するのか）＝（2杉／指導・熊田真紀教諭、吉田岳史教諭）雑賀姫夏、穴倉亜実、篠原茉優

選抜グループのプレゼンテーション

ポスターセッションに聴き入る生徒たち

続いて、高1・高2全グループによるポスターセッションで、14テーマが発表されました。例えば、「スポーツと栄養」をテーマに、運動部の生徒を対象にカロリー計算や栄養バランスの分布表を作成し、理想的な食生活の献立を考案するなど創意工夫溢れる内容。

参加生徒一同、仲間の研究発表に聴き入り、熱心にメモを取りました。

終わりに、島田学園長から「説明と資料を一致させるともっとよい。議論する力や質問力をつけるように頑張ってください」とエールが送られました。南部中高一貫部校長は、佐藤統括校長の言葉を代弁し「身近なテーマをよく調べている」と講評。さらに「どのような疑問をもち、仮説をたてるかが大事」とアドバイスしました。床爪克至スポ学教育センター長・教諭の挨拶後、星野結衣さんが感謝の言葉を述べて、有意義な研究発表が終了しました。

大学　外国語学部「優秀論文発表会」実施

優秀論文発表者を囲んで

平成28年度外国語学部「優秀論文発表会」が2月15日、本郷キャンパスで行われました。

島田燁子学園長、工藤秀機学長・教授、櫻山義夫副学長・教授、牛江ゆき子外国語学部長・教授はじめ関係者・保護者が見守る中、次の14名の4年生が、全身全霊をかけて書き上げた論文を発表しました（敬称略）。

★細田夏美「アメリカの笑いを創り出したユダヤ人～彼らがアメリカに与えたものとは～」（指導＝フェアバンクス香織准教授）

★吉田優菜「梶井基次郎とボードレール＝文学における「自己」と病＝」（指導＝小林正巳教授）

★金谷有理「20世紀イギリスにおけるキッチン設備の発展＝家政学理論の影響＝」（指導＝赤松淳子助教）

★辰口秋乃「Interpretation of Japanese Religion」（指導＝Dr.R.Van Benthuysen）

★浅井玲花「台湾における日本語教育について＝日本語教授書を中心に＝」（指導＝鈴木豊教授）

★大沢洋樹「ゾンビが象徴するアメリカ人の潜在的恐怖＝白人アメリカ人、マジョリティーからマイノリティへの変遷とテロー」（指導＝フェアバンクス香織准教授）

★豊嶋大吾「日本文化と水との関係性」（指導＝小泉博明教授）

★西岡あゆみ「子どもにやさしいまちづくり～日本における実現に向けて～」（指導＝甲斐田万智子教授）

★根岸菜緒「中高生の英語嫌い克服についての授業実践研究」（指導＝清水公男准教授）

★宮﨑菜津生「The Very Hungry Caterpillar とCLILを組み合わせた英語教材作成」（指導＝椿まゆみ教授）

★栗原理佐子「ネット依存の影響と国際比較」（指導＝櫻山義夫教授）

★若山くるみ「学生非営利組織におけるブランド・マーケティングの活用」（指導＝渡部吉昭准教授）

★吉野綾華「How Bunkyo Gakuin University Graduates Can Get a Job in a Foreign Country」（指導＝棚橋サンドラ教授）

★山本綾奈「アニメツーリズムにおける地域活性化 岐阜県飛騨市を事例に持続可能性を考える」（指導＝千葉隆一教授）

なお、発表者は、3月11日に仁愛ホールで行われた学位記授与式において、牛江学部長より表彰されました。

寄稿　レジリエンスとSST（Social Skills Training）

人間学部心理学科准教授　島田栄子

社会生活を送るうえで私たちは、様々な困難や危機的状況を経験します。しかし、このようなことも乗り越え回復し、更に成長していく人も多くいます。このような力をレジリエンスといい、先天的なものもありますが、後天的にも身につけることができます。日常的なストレスには、仕事や家事や学習が各自の許容範囲を超えることや、人間関係の悩みがあるでしょう。これらを少しでも改善し、レジリエンスを高めるため、SSTをお勧めします。

「荒れた学級で、いじめられている小学生にはっきり断る練習をしたら、いじめが減った。叱ってばかりの親が、褒める練習で子どもが落ちついた。職場で年上の部下に指示出しが気まずかったが、上手にお願いできる練習をして楽になった。就職の面接で何度も失敗したが、アドバイスをもらい練習をして就職できた」など日常の困難が解決されます。

SSTは、否定的な評価はせず、良いところを褒め、良い練習のために皆で助けることがルールです。自己評価が低い人も、この場に苦痛なく参加し、更に練習したいと思い、孤立していた人が、仲間やグループの楽しさを感じとれます。褒められると誰でも嬉しい気持ちになります。脳科学的にも明らかで、日本のある研究者たちが、脳機能をみる画像fMRIを使い、脳の「線条体」という部分に注目しました。他人に褒められ反応する脳の部位は、お金などの報酬を貰える時に反応する「線条体」と同じ部位であることが判りました。褒められることは、脳では「喜び」「報酬」でした。

現在、スマホやインターネットによる伝達は盛んですが、真の考えや気持ちは分かりません。受け手側の考え方の癖により、勘違いし行動し人間関係を壊すこともあります。実際に面と向かい、伝達することは重要です。筆者も講義の中でSSTの実技指導をしますが、一回の講義だけでも、「もっと練習したい」という意見がほとんどで、学生の表情や感情によい変化がみられます。繰り返すほどこのコミュニケーション力は身につき、適切なSST施行者がいればより効果的です。

本学には、SST普及協会認定講師が二人、保健医療技術学部作業療法学科の柴田貴美子准教授と、心理学科の島田がおります。SSTは、誰でもどこでもできます。レジリアンス力を高めるため、簡単なコミュニケーションの練習をはじめてみませんか？ 興味のある方は、お尋ねください。連絡先は以下になります。

【Eメール】
eshimada@bgu.ac.jp

【お詫びと訂正】2月号4面「英語暗唱コンテスト」記事の「田中寿」教諭から次の入賞者氏名が発表され～」は、「櫻井学教諭から～」の間違いです。訂正してお詫びします。

大学　六本木デザイナーズフラッグコンテスト　本学学生4名が入選

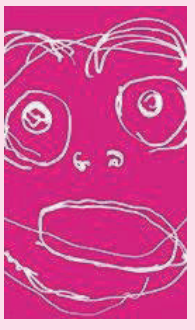
六本木活性化を目的とした第9回「六本木デザイナーズフラッグ・コンテスト2017」（主催＝六本木商店街振興組合）で、経営学部倉嶋ゼミの学生4名の作品が入選しました。

今年のテーマは「出会い」。昨年秋の募集期間に、全国から多数の応募があり、六本木ゆかりのデザイナー・長友啓典氏、葛西薫氏、廣村正彰氏が審査委員として138点を選出。選ばれたデザインは、フラッグとして2月23日から3月22日まで、六本木交差点を中心に六本木通りと外苑東通りの街路灯に掲示され、「アート・デザインのまち六本木」を演出しました。

入選者と入選作品は次の通りです。

「握手」鬼島凌（2年）

「ごあいさつ」古滝明日花（2年）



「…。」工藤美緒（2年）

「ば！」西本汐里（3年）